



01 設置目的

「デザインとは何か」を根底から考えることを通じて、デザインのアイデンティティを確立し、デザインの各分野の融合を図るとともに、それによって従来のデザイン領域を拡張し、未来のデザインを構想すること。

03 デザイン基礎学とは

「デザインとは何か、その真理・倫理・美を根底から考えることを通じて、デザインを一つの学として成立させるための思考の蓄積を指します。デザイン基礎学研究センターは、この目的を実現するため、4つの研究の柱を立てています。

1 PROVOCATION

デザインを根底から問い直す刺激的な批評の実践

2 LITERACY

デザイン基礎教育・共通教育の開発と実践

3 SYSTEMATIZATION

デザインの方法論の解明とその体系化の試み

4 DIVERSIFICATION

デザインにおける文化的多様性の推進

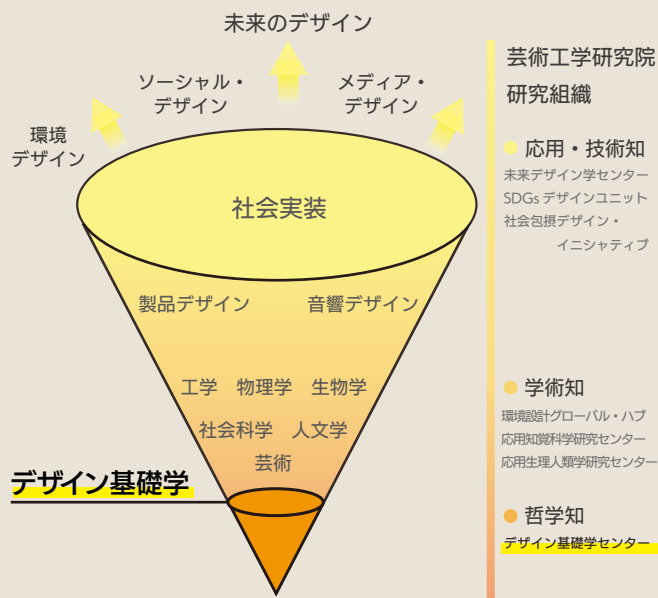
デザイン基礎学研究センターは、これらの研究事業を通じて、未来のデザインを構想します。

05 ウェブサイト

デザイン基礎学研究センターは、部局のウェブサイトを通じて、日本語・英語でその活動を公表しています。ウェブサイトは、センターの構成員、セミナーの報告、デザインの基礎概念などから構成されています。ウェブサイトのアドレスは以下の通りです。

<https://www.cdfp.design.kyushu-u.ac.jp>

02 設置構想



04 沿革

- 2017年10月 研究院長プロジェクトとして「デザイン学の体系化」を目的とし、芸術や工学といった境界領域に対して、「デザインとは何か」を定義しうる学問的基礎を究明する基礎論的研究を開始
- 2018年5月以降 「デザイン基礎学セミナー」を開催
- 2018年7月 武蔵野美術大学基礎デザイン学科と全6回の連続シンポジウム「Design Provoke bar」を開催
- 2019年 『デザインに哲学は必要か』（武蔵野美術大学出版局）を出版
- 2021年 センターウェブサイトを開設
デザインの基礎概念プロジェクトの開始
- 2022年4月 九州大学芸術工学研究院デザイン基礎学研究センターを部局内研究施設として設置

06 2022年度の活動・研究成果の報告

● ウェブサイトの構築

センターのウェブサイト芸術工学研究院のサーバー上に日本語・英語で構築しました。ウェブサイトは現在、センターの構成員、セミナーの報告、デザインの基礎概念などから構成されています。

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/>

● セミナーの開催

▶ 第24回デザイン基礎学セミナー

『手順、設計、配置——バイオとデザインの接点をめぐる』と題し、長谷川紫穂さん(KeMCo:慶應義塾ミュージアム・commons)をお招きし、2022年6月20日、オンラインでセミナーを開催しました。

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/802/>

▶ 第25回デザイン基礎学セミナー

『Design withの多元性——ともにデザインするとはどういうことか』と題し、上平崇仁さん(専修大学)をお招きし、2022年9月8日、オンラインでセミナーを開催しました。

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/918/>

▶ 第26回デザイン基礎学セミナー

『存在論的デザインとは何か——デザインするのは誰?それとも何?』と題し、センター構成員である古賀徹・増田展大(九州大学)が、2022年12月20日、オンラインでセミナーを開催しました。

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/986/>

▶ 第1回 数理モデルデザイン研究会

「Society for Math for Design」を2023年1月30日に大橋キャンパスにて開催しました。

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/1010/>

● デザインの基礎概念の執筆

● 基礎概念の項目(82件)について英語版記事を公開しました。

● これに加えて、以下の項目を日本語・英語にて新たに執筆しました。

自由美 free beauty

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/lexicon/184/>

付属美 dependent beauty

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/lexicon/1035/>

コ・デザイン Co-Design

<https://www.cdfdesign.kyushu-u.ac.jp/lexicon/982/>

● 研究センター構成員の研究業績

● 古賀徹「芸術工学のギリシア的起源——ソクラテス、プラトン、アリストテレスにおける有機的技術論」、『芸術工学研究』九州大学大学院芸術工学研究院、38号、1-32頁、2023年3月、査読有

● Nobuhiro Masuda, "Taxonomy of Posthuman Anthropomorphism: from Animal to Machine," Taboo-Transgression-Transcendence in Art & Science 2020, Ionian University Publications, 77-83, 2023年1月 (ISBN: 9789607260703) 査読有

● Nobuhiro Masuda, Yosaku Matsutani, Yasuharu Akiyoshi, Kazuhiro Jo, Juppo Yokokawa, "Reinventing Phonography: Three Case Studies of the Transduction," ISEA2022: International Symposium on Electronic Art, Barcelona. Proceedings, 861-863, 2022年12月 査読有

● Nobuhiro Masuda, Juppo Yokokawa, Kazuhiro Jo, Yosaku Matsutani, "Living Images, Inert Humans: Vitality of the Images Appearing in Chromatophony and A Wave," Dark Eden: Transdisciplinary Imaging, Art + Australia, Victorian College of the Arts University of Melbourne, 165-171, 2022年8月 (ISBN: 9780645544305) 査読有

● 増田展大「回帰する分類思考——生命の分類をめぐる科学認識論」、『哲学論文集』九州大学哲学会、58号、57-80頁、2022年9月、招待有

● Juppo Yokokawa, Nobuhiro Masuda, Kazuhiro Jo, "Chromatophony: A Potential Application of Living Images in the Pixel Era," Leonardo 55(3), 252-257, 2022年5月 査読有